

戦争は人の心を変えるのです

あつまれ! 集まれ! 何でも編集部

きょう長崎原爆の日 6歳で被爆した池田道明さんに聞く



被爆体験について語る池田道明さん＝7月22日、長崎市

池田さんは6歳の時、爆心地から700メートルほどのところにある長崎医科大学附属医院(現在の長崎大学病院)で被爆しました。母親がこの病院で働いていたため、いっしょに病院で寝泊まりしていました。

1945年8月9日は、同じ年の男の子「シゲちゃん」と屋上で遊んでいました。シゲちゃんは母親が入院中で、その付きそいで祖母と病院にいました。原爆が炸裂したのは午前11時2分。シゲちゃんがトイレに行きたいと言ったので、2人で

エレベーターおりた瞬間に「ピカッ」

1階に下りてきた時でした。池田さんは、次のように思い起こします。

ふきとばされて…

—私がエレベーターから飛び出した時、ろうかの奥が「ピカッ」と光り、私はその瞬間に気を失いました。目が覚めるとあたりは真っ暗。「シゲちゃん」と呼ぶと、2回目で返事がありました。どこにいたのかはわかりませんでした。

だんだん目が見えるようになってきて周りを見ると、私はエレベーターの前にいたはずなのに、



朝小サマースクール in 東京

あさしやう イン トウキョウ

朝小サマースクール in 東京

よりあがったで ギョーザいます〜

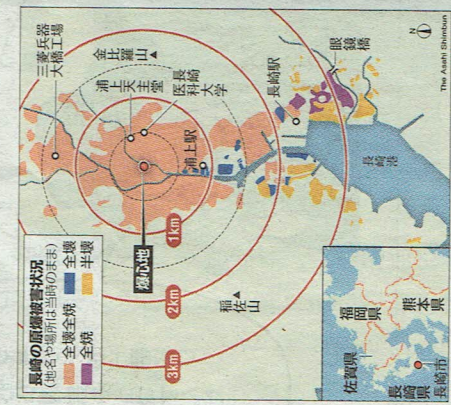
倒れても助ける余裕はない

奇跡的にはがはなかった池田さん。病院から500メートルほど離れた金比羅山へと避難しました。途中、変わり果てた街へ、人々の姿を目にします。

—家はつぶれ、道がせまくなったところをたくさんの方が逃げてくるんですね。街は火の海。歩いている人たちは、やけどで皮膚が垂れ下がっている。山に登る途中、バタバタと人が倒れていきます。でも、みんな助ける余裕はないんです。背中におぶっていた赤ちゃんが死んでいることに気づき、大声で泣いて



池田さんの話に耳をかたむける子ども記者たち



長崎市の原爆被害状況図(地名や場所は現在と同じ)

1945年8月9日に長崎へ投下された原爆は、プルトニウム型。長崎市中心部から約3キロ離れた浦上地区上空で爆発しました。原爆でこの年の年末までに、約7万人が亡くなったとされています。

池田さんは山の上で一夜を過ごし、翌日、病院へもどりました。そこで母とシゲちゃんに再会することができました。

—母は背中にガラス片が100個くらいささり、ベッドにうつぶせになっていました。母の姿を見たとき、ただただ、なみだが出てきました。

シゲちゃんどく

池田さんは母の実家に身を寄せることになりました。一方、シゲちゃんは原爆がもつて母と祖母を亡くし、孤児になってしまいました。終戦後、福岡県久留米市に行ったと聞きましたが、それ以来、会っていません。10年ほど前、シゲちゃんを探しましたが、見つけれませんでした。

—シゲちゃんは、久留米で出前の配達などをしていたが、お金の計算ができなかったという話を聞きました。戦後ほどこの施設に入れられて、勉強もできなかったのだろうと思います。戦争がなければ、シゲちゃんもちがった人生になっていただろうと思います。

朝小サマースクールが8日、東京世田谷区の昭和女子大学で開かれました。朝小で「枕草子」とめでたし!」(毎週金曜)を連載する天野麗さんのワークショップでは、参加者が清少納言さながらに、お題にあった物事を次々にあげて発表しました。写真。

このほか、さかなぐりや、ひきたよしあきさんの「言葉の教室」などで、大勢の親子連れが楽しんでいました。